

Max サマースクール 2020 イン藝大 初心者コースを受講されるみなさんへ

ワークショップを開始する前に、簡単に進め方についてご説明しておきます。

みなさんもお存じのように、初期の Max は MIDI 関連のプログラミングが中心でしたが、その後、オーディオ信号が扱えるようになり、Jitter の登場で画像や動画の加工も可能となり、さらに現在の Max 8 に至までの間に多くの新しい機能が加わり、さまざまなサウンドや映像に関するプログラミングが可能となっています。

その一方、多機能になった分、ゼロからプログラミングをはじめることよりかはチュートリアルを元にエフェクター的なパッチを作るような使い方も増えてきたようにも思います。しかし Max はプログラミング環境なので、本来は自分のオリジナルなアイデアを実現するツールでもあります。この「Max サマースクール」の各コースでもそうしたことへのヒントになる講義が組まれています。

この初心者コースでは、Max のプログラミングの原点に立ち返り、MIDI 音源を鳴らすためのオリジナルパッチを作ることを通じて、メッセージなどの命令の流れや、Max ならではの手法を学んでいきます。

ワークショップはこちらで用意したサンプルパッチを素材に、まずは Max のプログラミング方法の基礎や、MIDI を使った音の鳴らし方、乱数などを使ったプログラミングの基礎からスタートしていきます。

また、最後の回ではオーディオ信号の扱いの基本的な考え方にも少し触れていく予定です。

現在、日本では残念なことに Max に関する書籍はほぼ絶版になっており、用語などがわからない場合、参照する資料がない状況です。

また初心者が見てもわかりやすい日本語の情報はネットにもなかなかないのですが、神戸芸術工科大学の中安翌先生のサイトにある「Max 基礎」は初心者役に立つサイトかと思いますので、紹介しておきます。

<http://lecture.nakayasu.com/?p=2645>

それから最後にもうひとつ。Max のプログラミングの上達法は「習うより慣れろ」と「全部の機能を最初から使おうとせず、自分に必要なものだけ覚える」と「失敗しても原因を考えていけば必ず解決する」です。

私自身、Max のプログラミングはほぼ独学で、ネットで入手した他の人のパッチを分析してみたりしながら少しずつ Max を覚えていきましたから、きっとみなさんも大丈夫です。

ただこうした勉強法は時間もかかるし、うまくいかないと途中であきらめてしまうことにもなりがちです。なので今回の初心者クラスでは、初心者がやりがちなミスの注意点を中心に説明を進めていこうと思います。

それでは 4 日間のワークショップをがんばってください。

有馬純寿